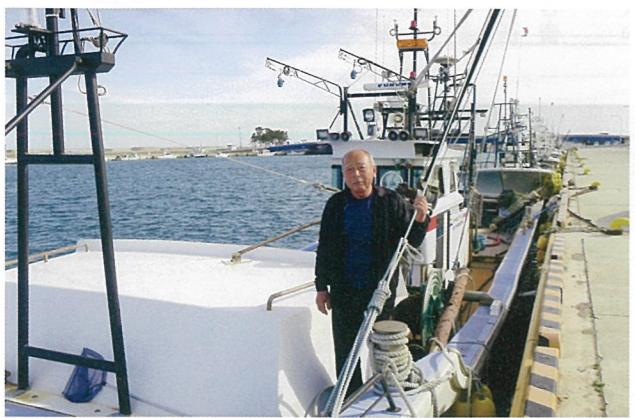




今野義正さんと5月にオープンした公民館

陸部に大きく分かれ、それぞれ「町区」「陸区」と呼ばれている。漁師が闊歩し、朝には「五十集」と呼ばれる女性が背負いかごに魚を入れて行商に出かけていく——それは町区の光景で、「陸区は閑上ではない」という町区のお年寄りも多かつたという。しかし、そうした海辺の町の風景は日本の高度成長と歩を合わせるように消えていった。



小齋力男さんと第十八広漁丸

年当時、町区の世帯の77%が直接、間接に漁業にかかわっていたという記述がある。名取市によれば、兼業も含めた漁業に従事する世帯は1973（昭和48）年に104だつたのに、35年後、震災前の2008（平成20）年には31に減っていた。

漁船の大型化が進むなか、「閑上漁港は名取川の河口港であるために、大洪水には河口が変動しあるいは河床が高くなつて、大型船の出入りに支障を来たす」（「名取市史」）のも漁業の発展を妨げた要因だつた。漂砂は閑上漁港の大

敵だった。　ちよつとした話だが、閑上にかつてあつた映画館の思い出を、名取ハマボウフウの会理事長の今野義正さん（76）や漁師の小齋力男さん（76）は、「一軒は映画ばかりかけていたけど、もう一つには演芸なんかも来ていたね」と楽しそうに語るのに、20歳あまり若い世代の齊藤静子さん（53）が覚えてているのは「映画館は廃墟になつていて怖かった」こと。そんな一事にも、町の移ろいはうかがえる。

仕事で故郷を離れていた今野さんが閑上に戻ってきたの

表札ぐら
ちゃんと出でいよ

都市化の流れの中で、コミュニティーは命脈を保っていた。表札ぐらいちゃんと出そうよ

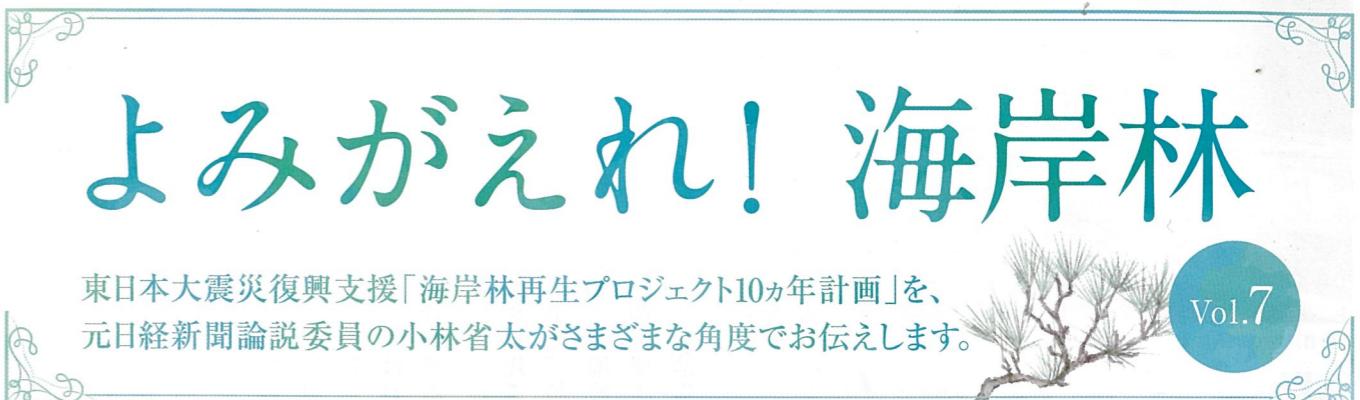
復興公営住宅もつくられた。震災のあと、時間がたつともに亡くなる人や別の場所に生活基盤ができる人もあり、必ずしも計画通りに進んでいないが、ことし3月末現在、区画整理が進む住宅地区に建てた公営住宅463戸には33戸をのぞいて人が住んでいるという。市はこのエリアに2100人の人口を見込んでいる。いまの居住者は約120人である。

は1975（昭和50）年。漁業と地元の水産加工業、農業に携わる人のほかに、名取の中心部や仙台などに通うサラリーマンが増えつつあつた。「それでも年寄りを中心に町内会をつくつて、地区対抗の運動会ではリレーなんか狂つたように応援したんですよ。小1から中3まで男女1人ずつ各地区から出て、その上は10年ごとの年代別に選手を決めて、延々と走る。町内会の役員が脚の速い子の評判を聞きつけて口説きにいけば、いやだとは言えませんからね」。

散歩するのが日課になつていい
た。当日はたまたま寄合があ
つて散歩に出られず、難を逃
れた——。震災は人々の命や
生活を巻き込み、そして閑上
の町は事実上なくなつた。

いま、ここは新たな町づく
りに向かつている。海に近い
災害危険区域は人が住めない
ので水産加工などの工場やス
ポーツ施設に、その内陸側は
最大5mかさ上げするなどし
たうえで住宅地に、といった
計画である。住宅地には、帰
還について被災者の希望を聞
きながら、戸建てと団地型の

中あわせて447人だった児童生徒は、この新学期には半分の209人。保育園や幼稚園など子育て施設の整備も進み、来年夏に大型スーパーも開店する。「病院がないのが問題です」と名取市の小畠和弥・震災復興部次長は言いつつ、新たに来る人も含めた定住人口、観光による交流人口、企業誘致が生み出す通勤人口、三つの「人口」を軸にして町づくりを進める計画を説明してくれた。



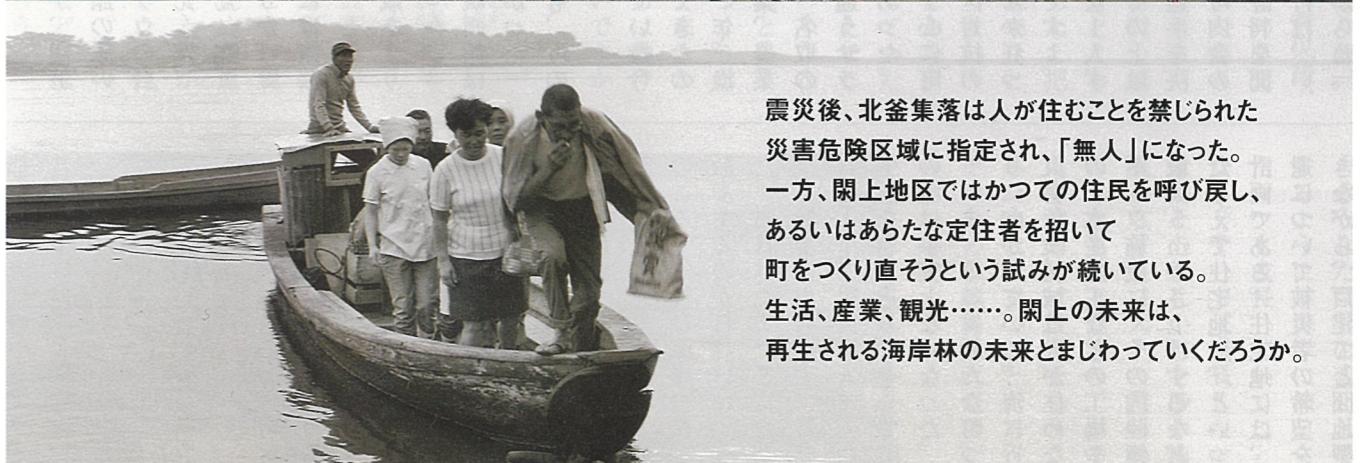
よみがえれ！海岸林

東日本大震災復興支援「海岸林再生プロジェクト10ヵ年計画」を、元日経新聞論説委員の小林省太がさまざまな角度でお伝えします。

Vol.7



震災後、北釜集落は人が住むことを禁じられた災害危険区域に指定され、「無人」になった。一方、閑上地区ではかつての住民を呼び戻し、あるいはあらたな定住者を招いて町をつくり直そうという試みが続いている。生活、産業、観光……。閑上の未来は、再生される海崖林の未来とまじわっていくだろうか。



上／震災後の闇上(2011年4月17日 東北地域づくり協会撮影) 下

／廢止前の名取川の渡し舟（1972年 名取市撮影）

姿を変えていった 漁業の町

北の塩釜と南の亘理を結ぶ宮城県の県道が閑上には走っている。この県道に名取川をまたぐ閑上大橋がかかつたのは1972（昭和47）年。それまでは名取川の渡し舟が県道の一部として人々の往来を支えていた。渡し守は県職員だったという。

姿を変えていった 漁業の町

太平洋や広浦、名取川、そして貞山運河。閑上は水と縁が深い場所である。あまり見かけない「閑」の字 자체が町の歴史を物語るようでもある。どちらも言い伝えだが、第四代仙台藩主の伊達綱村が寺院に参詣して山門越しに遠く浜を眺め、家来との間で「あれはどこか」「ゆり上浜です」「文字はどう書くか」「ありますせん」「ならば門の中に水と書くように」というやり取りを交わしたとか、火災に悩む村に「閑」の字を使うよう神託があつたとか、そんな説が

新たに来る人も含めた定住人口、観光による交流人口、企業誘致が生み出す通勤人口、三つの「人口」を軸にして町づくりを進める計画を説明してくれた。



高橋恒男さん

には昨年約40万人がやつてきた。この4月には、東北の太平洋岸につくられた散策路（トレイル）を長い距離歩こうと「わまちでらす閑上」が相次いでオープンした。来年は宿泊施設を備えたサイクルスポーツセンターが海岸林の中にできる。広く人を集め立派な仕掛けは次々に生まれつつあり、5月26日には震災メモリアル公園が完成、「まちびらき」のイベントも開かれた。

自宅が震災で壊れずにすんだ今野さんは、いまも地区的役員をつとめ、登校する子どもたちのための「旗振り」活動をしている。「国も自治体もお金をかけてハーデは震災前よりむしろ立派になつた。でも、コミュニティの再建はまだまだ」というのが実感だ。

「震災のときあんなに助け合つたじゃないですか。その体验を大切にしないと。顔はみたことがあっても名前の分からない人をなくしましよう。アパートでも表札ぐらいちゃんと出して、町内会にも入ろうよ」ということです。知ら

ない間にサリンをつくつてゐる人がいたら困る」と力説する。

津波に漁船を流された小齋さんは北海道や青森まで出かけて中古船を買い、震災1年後にアカガイ漁を再開した。いまは5トンの新造船「第八廣漁丸」に買いかえて、市場の開いている週5日、海に出る。

アカガイの水揚げは一日50kgで「そこそこ」だとうが、5月に貝毒が検出されてしまふ。いまはガザミ（ワタリガニ）漁で食いつないでるけだ。7、8月は産卵期で禁漁だし、いまはガザミ（ワタリガニ）漁で食いつないでるけど、とにかく（貝毒の検査で）3週間続けて数値が下がつて去年みたいになると困るよ」。

6月初め、小齋さんはそう言った。

「閑上出身で亘理町に住む齋藤さんは言う。「震災後の余裕のない生活のなかで、海外からもボランティアの人たちが来ているのを知りながら、ああ自分はなにもできない根性声である。



4月20日のボランティアに参加した齋藤静子さん



閑上の住民も参加した海岸のゴミ拾い活動（左）。堤防をはさんで500mほど離れた場所では、オイスカのボランティア活動も（2019年4月20日）

朝日にあたつてキラキラ光るなしだと思って悲しかったんですね。でも、勤め先の二コンイアの話があつたとき、意気地なしでもこれならできると参加しました。海に来るのは嫌でしたが、だんだん大丈夫になりました」

小齋さんの思い出話を聞くと、「マツに積もった雪が融けないと、松葉の先についた水滴が

渡辺成一さん（69）は震災後、内陸部に移つて娘一家の県営住宅や民間のアパートで暮らしてきました。「反省すべきところでも『住まない』という選択肢はなかった。どんな形であれ戻りたいと思つていたんです。家内は違う考え方でした

が、「コミュニティづくりは新しいリーダーが出て来るかどうかです。自分からは動けない人が圧倒的に多いですか」と話している。

友人が3、4人できたというたが。住み始めてあらたな友人が3、4人できたというたが。住み始めてあらたな友人が3、4人できたとい

うが、「コミュニティづくりは新しいリーダーが出て来るかどうかです。自分からは動けない人が圧倒的に多いですか」と話している。

渡辺成一さんは震災後、内陸部に移つて娘一家の県営住宅で暮らしてきました。「反省すべきところでも『住まない』という選択肢はなかった。どんな形であれ戻りたいと思つていたんです。家内は違う考え方でした

が、「コミュニティづくりは新しいリーダーが出て来るかどうかです。自分からは動けない人が圧倒的に多いですか」と話している。

は、震災の時、被害を小さくするため役立つことだろう。あるいは津波の時、被害を小さくするため役立つことだろう。あるいは反省し、状況をきちんと把握できれば一度津波が来たところでも『住まない』という選択肢はなかった。どんな形であれ戻りたいと思つていたんです。家内は違う考え方でした

が、「コミュニティづくりは新しいリーダーが出て来るかどうかです。自分からは動けない人が圧倒的に多いですか」と話している。

渡辺成一さんは震災後、内陸部に移つて娘一家の県営住宅で暮らしてきました。「反省すべきところでも『住まない』という選択肢はなかった。どんな形であれ戻りたいと思つていたんです。家内は違う考え方でした

☆次回は10月号に震災年の後半のプロジェクトの動きについて書く予定です。



公益財団法人
オイスカ

〒168-0063 東京都杉並区和泉2-17-5
TEL(03)3322-5161 FAX(03)3324-7111
E-mail:kaiganrin@oisca.org

■海岸林再生プロジェクト ホームページ
<http://www.oisca.org/kaiganrin/>

ブログは毎日更新中!

オイスカ 海岸林

検索

プロジェクトへのご支援・ご協力お願いします！

- 郵便局から（お名前・ご住所・電話番号などを払込取扱票に明記してください）
口座記号・番号……00100-6-482316
- 加入者名……海岸林再生募金
- 銀行から（お名前・ご住所・電話番号などは別途下記にお知らせください）
銀行名……三菱UFJ銀行 永福町支店（支店番号347）
口座……普通 0054080
名義……公益財団法人オイスカ（コウエキザイダンホウジンオイスカ）



賑わいを見せる日曜の朝市（2019年6月）



町はまだ巨大な工事現場のようだ。奥は団地型の復興公営住宅（2019年5月）